

医師にはなかなか見せてくれない  
患者さんの本当の気持ちを、  
看護師を通じて知ることができます。



千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学 教授／副研究院長  
市川 智彦 先生

「いいドクターかどうか知りたいのなら、看護師さんに聞くのが一番いい」——そんな言葉のある医師から聞き、なるほどと思ったことがあります。患者さんと近い位置にいて、患者さん目線でも物事を考えることができる看護師だからこそ、医師の人となりも的確に見ているということなのでしょう。

看護師の目線、それは診療の際にも大きな役割を果たしています。医師の前では何でもなさそうにしている患者さんでも、看護師には「こういうところが辛い」と、事細かに話していたりします。それを電子カルテなどで共有することで、医師の目線ではなかなか見えてこない患者さんの状況を正確に

把握し、より円滑に診療を行うことができるのだと思います。

ストレスを抱える患者さんは、医師には言えない不安や不満、怒りを看護師にぶつけてきます。そのような時、看護師がしっかりと言葉を受け止め、吸収してくれる……これは、患者さん自身はもちろん、病院にとっても非常に重要なことです。同時に、それは受け手側の心に余裕がなければ成し得ないことです。

看護師が心にゆとりを持って働ける病院環境を、私も医師として作っていかねばと常々思っています。